

平成 17 年度 春期 システム監査技術者 午後 解答例

この解答例は、独立行政法人 情報処理推進機構 情報処理技術者試験センターが公表しているものです。著作権は、同センターにありますので、その点ご注意ください。

問 1

システム監査が果たす役割の重要性の高まりと相まって、実施しているシステム監査自体が適切かどうかについても関心が高まりつつある。さらに、実施した監査の品質確保について、第三者に説明できるようにすることも求められている。そのためには、システム監査人の育成、教育に加えて、監査部門内におけるシステム監査の品質の評価や、外部の第三者による評価が必要になる。

本問では、システム監査人の立場からシステム監査の品質の確保及び向上についての重要性を認識し、品質の確保に関する知識や能力があるかどうかを採点のポイントにしている。

* *

問 2

近年、企業の情報システムの運用・保守業務のアウトソーシングが増加しているが、その効果が目に見えにくかったり、当初の目的を達成していなかったりするケースが見受けられる。一方、企業の情報システム部門においても運用・保守業務の比率が増大するなか、コストの不明確さやサービスの品質に対する経営者及びユーザ部門の不満が高まっている。このような状況において、従来あいまいにされがちだったサービスの提供側と利用側との間のサービスレベルを明確にし、管理していくサービスレベルマネジメントが重要になっている。

本問では、システム監査人として、サービスレベルマネジメントの必要性とその監査について、理解しているかどうかを採点のポイントにしている。

* *

問 3

情報システムは、経営戦略を迅速かつ効果的に実行するために必要不可欠なものになっている。しかし、情報システムを個別に検討して構築する部分最適化を繰り返しては、企業全体としての IT ガバナンスを確立することは難しい。そこで、企業全体としての全体最適化の視点から、システム監査を実施することが求められている。

本問では、情報システムの全体最適化の監査について、部分最適化と全体最適化とのトレードオフを踏まえて、監査項目の設定や監査手続の適用について、理解しているかどうかを採点のポイントにしている。

注：この解答例に関するメールでのご質問には、応じかねます。あしからずご了承ください。